

各 位

2023年8月4日

株式会社 山と溪谷社

<https://www.yamakei.co.jp/>

人生の最終結論「役立たずでもいいじゃない」。虫から教わった養老先生の生きるヒント。

インプレスグループで山岳・自然分野のメディア事業を手がける株式会社山と溪谷社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：二宮宏文）は、ヤマケイ文庫『養老先生と虫』（養老孟司／著）を刊行いたしました。



——人が生きる理由とは？

動物も昆虫も植物も、みんな行きがかりだ。樹木は生えてしまったから仕方なくそこにいる。我々は生きているから死ぬまで生きるほかないのである。（本文より）

ただ面白いから一日中、虫を見ているだけ。そうしているうちに、なにかがわかってしまう。物事にすべて理由があるとは限らないのである。

役立たずでもいいじゃない。

虫を相手にすると、そういう問題の解答がひとりで見えてくる——。

長年、虫と自然に教わってきた世界の見方を明解に楽しく語る養老孟司流の生きるヒント。

虫に憑りつかれた面々が虫好きの楽園・ラオスに集った命がけの採集記と文庫版オリジナルエッセイも収録。

装画・挿画／矢部太郎、ブックデザイン／高柳雅人

**オーストラリアの  
フルアント**

留学中に刺された。八十センチ以内に近寄ると、向こうから飛びかかってくるんだから、タチが悪いんだよ。



キハリアア属の種

**コスタリカの  
カメノコハムシ**

小学生のとき、こんな標本が十四も並んだ箱を見て、「中南米には「生行かない」って誓った。こんなスゴい虫がたくさんいるところなんかに行ったら、帰ってこれなくなっちゃうから。老人になつてからはもういいやと思つて、二度行きましたけどね。



ツヤツヤカメノコハムシ



フクロツヤカメノコハムシ



カメノコハムシ属の種

**ラオスのサシガメ**

背中の山はアリの死骸。体液を吸ったあと、のさばる。アリの背中にくっついている。アリを油断させるためにアリの匂いを付けているという説もありますが、よくわかりません。一緒にいた池田晋彦君は「ネクロフォイルス(屍体フェチ)って名前だと面白いね」とうれしそうでしたよ。



ムツクシメ属の種

**ラオスの  
巨大ナナフシ**

枯れ枝をくっつけてるわけじゃないですよ。



ラオス・バクテラ

3

**はじめに**

いい歳をして山中で網を振り回す。珍奇な虫が採れると、ワーツとかギャーとか叫ぶ。どう考えたって、きちんとした分別のある大人の行動とは思えない。しかも採ってきたゴミみたいな虫を一日中眺めずかして、ウーンとか、スケエーとか、騒ぐ。家族のだれも共感なんかしない。その分ちやんと働いて、一家の主人らしく、お金でも稼いでこないか。お金にならなくても仕方がないけど、せめて世間の役に立つことをしてくれないか。

だから、虫屋でも常識家は世間がいささかの遠慮がある。虫が好きだなどとは、あまり大声でいわない。いつてみたところで、たいていの人が聞いてくれない。フーン、でお終い。

だって、ふつうは虫に関心がないのだから、話が續かないのである。私がいくらか

大声でいうのは、世間での公式の暮らしがすでに終わつたからである。それまでにこ奉公したじゃないか。そういう思いがある。

虫採りはまさしく世間でいうオタクの世界である。しかも、長続きがするから、人によつては中毒、依存症だということもまれでない。

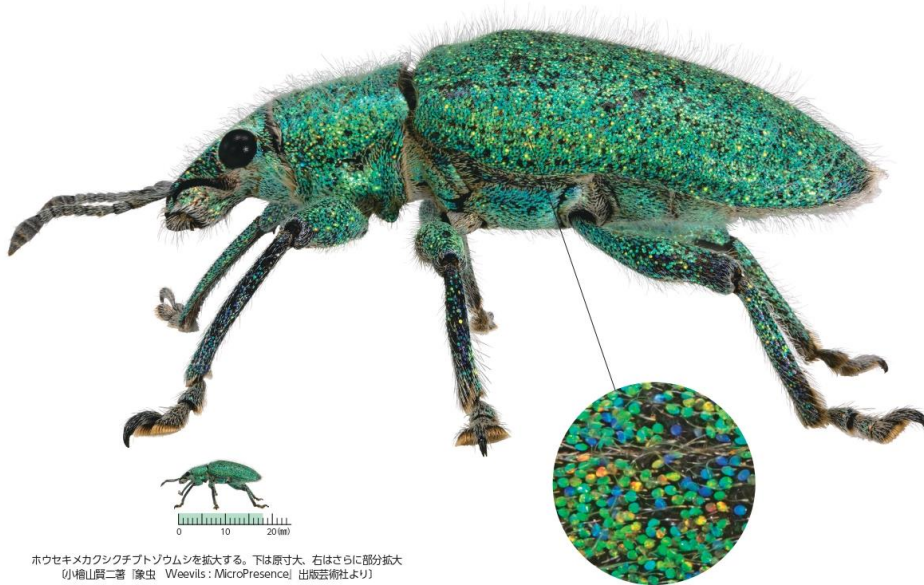
でも、人のすることは、生きていくためにどうしても必要なことを除けば、依存症といつたほうがいいことが多い。政治、とくに選挙が好きながいるが、これも家族の迷惑を考えないでやるようになると、一種の依存症であらう。

私は本をよく読むが、これは間違いなく依存症の傾向がある。読むものがないと本当にジタバタするからである。世間ではこういう人のことを「本の虫」という。だから私は「本の虫」で「虫の虫」。

なにこれもそうだが、あまり極端にならなければ、依存症でいいと思う。それがな人は逆に気の毒に見える。

世間のお役に立つことが生き甲斐だつたら、お役に立てなくなつたときに、どうすればいいのか。自然を相手にすると、そういう問題の解答がひとりで見えてくるように思う。

3



ホウセキメカクシクチフトソウムシを拡大する。下は原寸大、右はさらに部分拡大  
『権山真二著「象虫 Weevils: MicroPresence」 出版芸術社より』

15

14

### 拡大する

虫は拡大しないと、よく見えない。もっとも知り合いの虫屋に、虫メガネなんて要らない、と豪語するヤツがいる。強度の近眼だから、肉眼でもよく見えるというのである。その代わり臭いが嗅げそうなくらい近くで見ている。

虫メガネであれ、顕微鏡であれ、拡大すると、なにが起るのか。むしろ小さい虫が大きくなる。でも、そこで止まってはいけない。

小さい虫が大きくなったということは、じつは世界が大きくなったのである。その虫を百倍のレンズを通して見たとする。確かに虫は百倍になっているが、同時に大きくなったものがある。それは背景となっている世界全体である。虫を百倍にするということは、世界を百倍にしたということなのである。

それを忘れる人が多い。というより、ほとんどの人が、部分を拡大しただけだと思

42

っている。それでいいのだが、その意味が問題である。百倍になった世界を見ることが出来るか。それまでの百倍の間隔がわかるはずではないか。

そこを忘れる。だから、拡大して精密に観察したら理解が増した、と思ってしまう。でも、それが葉っぱにとまっている虫なら、葉っぱも百倍になっている。

以前、こういう例を出したことがある。黒板に $\pi$ と二十センチの大きさで書く。これは水分子の拡大図だと思ってもいいよね。学生にそう伝える。じゃあ、水分子の大きさはわかっているから、この拡大図は水分子を何倍にしたものか。その倍率がわかれば、その倍率で自分が解剖している人体を描いてみなさい。

答。足が地球にあつて、頭は月に届く。

小さいものを拡大するということは、世界を拡大することなのである。ということは、拡大してものを見ようとするなら、世界全体をそれだけ拡大して考えなきゃならない、ということである。そこをたいていの人は忘れる。拡大して見た分だけ、世界が精密にわかった。ついそう思ってしまう。

ウィルスの構造は、いまでは完全に化学的に決定できる。それならその精度で、ヒトの細胞を記述できるか。無理ですなあ。細胞という言葉にしたらだけで、ウィルスと

43 虫を見る





## ●内容

### 養老先生と虫 交遊録

#### ◎虫を見る

見ること

形はどこにあるか (一)

形はどこにあるか (二)

色を見る

虫の色

虫の大きさ

拡大する

区別して分類する

五感と虫

虫を見てなにがわかるか (一)

虫を見てなにがわかるか (二)

それでも虫なのだ

#### ◎ラオスで虫採り

タライいっぱい

虫採りに抵抗のない国

懐かしい風景

似ているのに違う

二次林だという思い込み

クチブトゾウムシはどこにいるか

行ってみなけりゃわからない

二〇〇八年春、シェンクワンへ

蛍光灯破損事件

テングアゲハの聖地

チョウを呼ぶ色

ラオスヒノキ方式  
原生林は虫が少ない  
シダにつくクチブトゾウムシ  
瞬間移動する蝶人  
虫屋とラオスに適応  
いてはいけないチョウがいた  
ヤシの実から出てきたゾウムシ  
爺さんの災難  
ネジレバネという変な虫  
完全変態の謎  
一つの原理では説明できない  
またもや新種発見  
広がるトウモロコシ畑  
ラオスには研究拠点が必要  
アシナガバチの攻撃  
第三の事件

文庫版エッセイ 人が生きる理由とは

### ●著者略歴

養老孟司（ようろう・たけし）

1937年生まれ。解剖学者。東京大学名誉教授。心の問題や社会現象を、脳科学や解剖学などの知識を交えながら解説し、多くの読者を得ている。大の虫好きとして知られ、現在も昆虫採集・標本作成を続けている。『からだの見方』（筑摩書房）でサントリー学芸賞受賞。著書に『バカの壁』『死の壁』（以上、新潮新書）、『唯脳論』（ちくま学芸文庫）、『かけがえのないもの』（新潮文庫）、『まる ありがとう』（西日本出版社）、『養老孟司の人生論』（PHP文庫）、『ものがわかるということ』（祥伝社）など多数。

### ●書誌データ

書名：ヤマケイ文庫『養老先生と虫』

著者：養老孟司

発売日：2023年8月8日

定価：990円（本体900円＋税10%）

208ページ／文庫判／1色刷（カラー口絵32ページ）

<https://www.yamakei.co.jp/products/2823049750.html>

【山と溪谷社】 <https://www.yamakei.co.jp/>

1930年創業。月刊誌『山と溪谷』を中心に、国内外で山岳・自然科学・アウトドア等の分野で出版活動を展開。

さらに、自然、環境、ライフスタイル、健康の分野で多くの出版物を展開しています。

【インプレスグループ】 <https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス（本社：東京都千代田区、代表取締役：松本大輔、証券コード：東証スタンダード市場 9479）を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「航空・鉄道」「モバイルサービス」「学術・理工学」を主要テーマに専門性の高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

【本件に関するお問合せ先】

株式会社山と溪谷社 担当：綿

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-105 神保町三井ビルディング

TEL03-6744-1900 E-mail: [info@yamakei.co.jp](mailto:info@yamakei.co.jp)

<https://www.yamakei.co.jp/>